

CASBEE⁺ 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.2.0)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-----------------------|--------|---------------|
| 建物名称 | (株)島津製作所 春榮寮 | 階数 | 地上7F |
| 建設地 | 京都府京都市右京区西院春栄町39 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 準工業地域、準防火地域 | 平均居住人員 | 136 人 |
| 気候区分 | 地域区分V | 年間使用時間 | 5,110 時間/年 |
| 建物用途 | ホテル、 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2010年2月 予定 | 評価の実施日 | 2009年2月4日 |
| 敷地面積 | 10,672 m ² | 作成者 | (株)ノム建築設計室 堀井 |
| 建築面積 | 924 m ² | 確認日 | |
| 延床面積 | 4,170 m ² | 確認者 | |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|--|--|---|
| 総合 | | その他 |
| <p>約50年前から存在する会社の社員寮の老朽化に伴う建て替え工事である。</p> <p>地域住民との係わり、地域環境への配慮等、地域の中の建物を十分配慮し計画している。</p> <p>広大な敷地に残された植樹をできるだけ残し、さらに鶯などの小鳥が戻ってくるような環境作りを目指している。</p> | | <p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p> |
| Q1 室内環境 | Q2 サービス性能 | Q3 室外環境(敷地内) |
| <p>窓面を大きく取り、極力 自然採光、自然換気で生活できる様に配慮している。</p> | <p>十分な広さの寮室を確保している。</p> <p>設備の配管を更新しやすくように配管ピットを設けている。</p> | <p>京都市景観条例に基づいた意匠としており、地域住民との協議により建物配置や植栽を決めている。</p> <p>前面道路沿いには緑地帯を設け外柵はその植栽分セットバックして設置する。</p> |
| LR1 エネルギー | LR2 資源・マテリアル | LR3 敷地外環境 |
| <p>オール電化である。</p> <p>南面に掃き出しの開口部を設け、十分な出幅のバルコニーや庇を設けている</p> <p>片廊下式で寮室内の通風が十分確保できる。</p> | <p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> | <p>オール電化の為大気汚染はない。空調室外機もルームエアコンの為、騒音・振動も共に小さい物となる。</p> <p>厨房からのゴミは毎日業者収集を行い、また保管場所の清掃管理も徹底する。</p> <p>敷地内部は極力舗装しないで植栽又は砕石敷きと</p> |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency (建築物総合環境性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される